

令和 6 年度
運営に関する計画
最終評価

(令和 7 年 3 月)

大阪市立東三国中学校

大阪市立東三国中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

学校の現状として、生徒の規範意識が高く、暴力行為等の問題行動も少ないことが挙げられる。いじめについても、アンケート等を通じて認知したものについてはその後の対応で 100% 解消できている。このように、生徒にとって安全で安心できる学校を維持することができているが、不登校生への対応は依然として本校の課題である。

学習面においては、全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト等の結果からも、教員が授業力向上に取り組み、生徒が真面目に学習に取り組んでいる成果が見られる。しかし、学習に対する不安から登校しづらくなる生徒もあり、ICT 機器の効果的な活用や個に応じた指導を進めながら、よりわかりやすい授業を心がけ、生徒の達成感や学習意欲を高めていけるようにしたい。

体力・運動能力面でも日頃の体育の授業の成果が表れている。今後も運動を楽しむ気持ちを育みながら、体力・運動能力の向上の取組を継続する。また、規則正しい生活リズムが崩れることから遅刻や欠席が増え、不登校に陥る生徒もあるため、学力や体力向上の基礎となる健康的な生活習慣の重要性について啓発を行う。

教職員の働き方改革については、引き続き工夫をしていきたい。生徒や教職員の地域行事への参加や地域ボランティアの方々による学校支援活動を進めるうえで、地域とのつながりを大切にしながら、今後の在り方についても検討していきたい。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

○令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめはどんな理由があってもいけない」とだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85% 以上にする。（基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現）

○毎年度末の校内調査において、不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。（基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現）

○毎年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を、毎年、増加させる。（基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現）

○令和 7 年度の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 77% 以上にする。（基本的な方向 2 豊かな心の育成）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の校内調査における「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。

(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

○令和7年度の大坂市英語力調査における、中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を60.5%以上にする。

(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

○令和7年度の校内調査における「運動することが好きですか」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。

(基本的な方向5 健やかな体の育成)

【学びを支える教育環境の充実】

○ICT機器の効果的な活用を進め、令和7年度末の校内調査における「学校での活動や家での生活の中で、学習者用端末を活用できますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。

(基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進)

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を60%以上にする。

*基準2

ア. 1年間の時間外勤務時間が720時間を超えない

イ. 1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を1年間に6月までとする

ウ. 1か月の時間外勤務時間が100時間を超えない

エ. 連続する複数月（2か月、3か月、4か月、5か月、6か月）のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の1か月当たりの平均が80時間を超えない

(基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり)

○令和7年度末の校内調査において、生徒1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を6冊以上にする (基本的な方向8 生涯学習の支援)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○今年度の全国学力・学習状況調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。(基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現)

令和4年度	令和5年度	令和6年度
82.1%	75.6%	82%

○年度末の校内調査において、不登校の生徒の割合を前年度より減少させる。

(基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現)

令和4年度	令和5年度	令和6年度
9.13%	10.0%	6.8%

○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

(基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現)

令和4年度	令和5年度	令和6年度
16.7%	37.5%	25%

○今年度の校内アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を77%以上にする。

(基本的な方向2 豊かな心の育成)

令和4年度	令和5年度	令和6年度
75%	82%	82%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○校内アンケートにおける「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を55%以上にする。(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

令和4年度	令和5年度	令和6年度
49%	54%	55%

- 大阪市英語力調査における、中学校卒業段階でのC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を6 0 . 5 %以上にする。
(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

令和4年度	令和5年度	令和6年度
6 0 . 3 %	6 6 . 7 %	7 0 . 7 %

- 校内アンケートにおける「運動することが好きですか」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を6 0 %以上にする。
(基本的な方向5 健やかな体の育成)

令和4年度	令和5年度	令和6年度
5 4 %	5 8 %	5 6 %

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日が、年間授業日の5 0 %以上にする。
(基本的な方向6 教育D X (デジタルトランスフォーメーション) の推進)
・年度目標に掲げる「授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日が、年間授業日の5 0 %以上」の数値には3 5 . 0 %と届かなかったが、月平均の活用率は昨年度を上回った数値となっている。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を6 0 %以上にする。
(基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり)
・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務時間上限基準の達成率は4 1 . 7 %であり、年度目標には届かなかったが、昨年度(3 7 . 5 %)から改善はみられている。
- 今年度末の校内調査において、生徒1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を5冊以上にする。(基本的な方向8 生涯学習の支援)
・1月末で学校図書館の貸出冊数が1 4 2 2 冊であり、一人平均5 . 1 5 冊となり、指標を超えることはできた。

(様式2)

大阪市立東三国中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○今年度の全国学力・学習状況調査の「いじめはどんな理由があってもいいないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。（基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現）

令和4年度	令和5年度	令和6年度
82.1%	75.6%	82%

○年度末の校内調査において、不登校の生徒の割合を前年度より減少させる。

（基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現）

令和4年度	令和5年度	令和6年度
9.13%	10.0%	6.8%

○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

（基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現）

令和4年度	令和5年度	令和6年度
16.7%	37.5%	25%

○今年度の校内アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を77%以上にする。

（基本的な方向2 豊かな心の育成）

令和4年度	令和5年度	令和6年度
75%	82%	82%

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

取組内容①【1、安全・安心な教育環境の実現】

〔B〕

- ・いじめや不登校、問題行動等に対応する制度の活用

家庭やS C、こどもサポートネットのS S W、関係諸機関と連携しながら、段階的生活指導基準の取組を進める。

指標 教育相談や懇談、アンケート等を通じて生徒の実態を掴む機会を月1回設定し、いじめや問題行動に対して早期発見、早期対応を目指す。

取組内容②【2、豊かな心の育成】

・道徳教育の推進

〔B〕

「読み物教材」の他、「問題解決的な学習」や「体験学習」などさまざまな方法による授業の構築を進める。

・キャリア教育の充実

〔B〕

適切な職業観や勤労に対する意識を育成するための3年間を見通した指導計画を立て、取組を進める。

・人権を尊重する教育の推進

〔B〕

「平和教育・男女共生教育・国際理解教育・特別支援教育」を4つの柱として、各学年で指導を進める。

・インクルーシブ教育の充実と推進

〔B〕

個々の生徒の状態を把握し、保護者や他の機関との連携を密にするとともに、日常的な情報交換により、教職員の共通理解を図る。

指標　・年間カリキュラムをもとに計画的に授業を進める。

- ・1年生で職業セミナー、2年生で職業レディネステスト、3年生で高校出前授業、マナー講座を実施する。進路学習を1年生で2時間、2年生・3年生は5時間以上取り組む。3年生の進路希望調査を4回以上行い、それを受けて懇談および教育相談を進める。
- ・各取組後に振り返りを行い、「自分の考えを持てたか」、「他人の意見を聞いて新しく気づいたことがあったか」、「自分の考え方や生き方を考えたか」を確認し、取り組みの成果を確認する。
- ・特別支援教育委員会、職員会議、学年会等の会議を通じて、教職員の共通理解を図る。保護者とは連絡ノートや支援学級通信を活用し、連携をとる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・月に1度「生活アンケート」「いじめアンケート」「教育相談」等を実施し生徒間のトラブルや人間関係の悩みに早期発見・早期対応することができた。外部機関と連携を深めることで、前年度不登校生においても一定数改善があり、長期欠席者へのフォローが行き届くようになった。
- ・道徳教育の推進について、年間カリキュラムに基づいて計画通り取り組むことができた。内容項目の履修も、各学年の協力もあり、滞りなく行うことができた。
- ・1年生：今年度、職業体験セミナーがインフルエンザ流行のため実施できなかった。2年生：職業レディネステストを12月に実施。3年生：7月に高校出前授業、11月にマナー講座を実施。3年生では進路希望調査を5回行い、それをもとに懇談・教育相談を実施した。
- ・各学年、平和教育・男女共生教育・国際理解教育についてさまざまな授業形式で順調に授業が進んでいる。
- ・インクルーシブ教育の充実と推進について、小学校や療育施設等と連絡を取り、職員会議等を利用し教職員へ伝達することができた。また、保護者とは連絡帳を活用しながら、必要に応じて電話連絡や懇談などを行うことができた。

次年度への改善点

- ・道徳教育の推進に関して、例年通り取り組みを行い、豊かな心の育成を目指す。
- ・1年生のときから将来の自分を想像できる取り組みを行い、3年間を見据えたキャリア教育を行っていく。
- ・インクルーシブ教育の充実と推進については、学校としてのやり方を考案し、保護者や他の機関との連携を図る。

(様式2)

大阪市立東三国中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○校内アンケートにおける「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を55%以上にする。（基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上）

令和4年度	令和5年度	令和6年度
49%	54%	55%

○大阪市英語力調査における、中学校卒業段階でのCEFRA1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を60.5%以上にする。

（基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上）

令和4年度	令和5年度	令和6年度
60.3%	66.7%	70.7%

○校内アンケートにおける「運動することが好きですか」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。

（基本的な方向5 健やかな体の育成）

令和4年度	令和5年度	令和6年度
54%	58%	56%

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

取組内容①【4、誰一人取り残さない学力の向上】

- ・個に応じた指導の充実

[B]

各学年の教科学習において、習熟度別少人数授業やサポーターの効果的な活用により、個に応じたきめ細やかな指導を実施する。

- ・理科教育の充実

[B]

「主体的・対話的で深い学びの実現」、「理科の見方・考え方」、「探求の過程」を考慮し、生徒の科学的に探究するために必要な資質・能力を育む授業を行う。

- ・英語教育の強化

[B]

生徒が興味関心を持つような授業を行うとともに、4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の育成を進める。

- ・淀川区学力向上支援事業の活用

[B]

2年生を対象に文章能力検定受検に向けて目標を持って学習に取り組むことで、学習意欲を高め、基礎学力向上の一助とする。

指標

- ・校内アンケートの「授業はわかりやすいですか」の項目について肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。
- ・課題の把握、課題の探求、課題の解決を意識した「観察・実験」を実施する。また、観察・実験を各学年8回以上行う。
- ・3年生における大阪市英語力調査の結果、CEFR A1レベルの英語力を有する生徒の割合が60.5%以上になるように、文法演習を増やし定着を図り、多読教材を使用し、教科書以外の語彙も指導していく。
- ・文章能力検定の合格率を70%以上にする。

取組内容②【5、健やかな体の育成】

- ・体力・運動能力向上のための取組の充実

[B]

体育の授業だけでなく、昼休みや学級活動、総合的な学習の時間に運動をする取組を推進する。

- ・健康的な生活習慣の定着に向けての取組

[B]

規則正しい生活習慣や望ましい食習慣を身につけることができるよう、啓発活動を進める。

指標

- ・校内アンケートの「運動することが好きですか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。
- ・健康的な生活習慣の大切さが理解できるように、集会や各種通信等で啓発を行う。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケート「授業はわかりやすいですか」の項目について肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にするという目標に対して、結果は92%と大きく上回ることができた。 ・理科教育の充実の項目として、「主体的・対話的で深い学びの実現」、「理科の見方・考え方」、「探求の過程」を意識した実験を授業時間数の中で計画的に行ってい。 ・3年生における大阪市英語力調査の結果、CEFR A1 レベルの英語力を有する生徒の割合が70.7%であり、目標より大幅に上回った。 ・淀川区学力向上支援事業「文章能力検定受検」2/5（水）に実施したため、結果はまだ出でていない。受検後のアンケートにて、「受検にむけて勉強や努力したことは、自分の成長や自信につながりましたか？」では、「つながった」「どちらかというとつながった」の肯定的回答は80%であった。「受検してよかったです」の質問では「自分の強みや弱みが分かった」（42%）、「勉強に対して自信がついた」（20%）との回答があった。 ・体育の授業だけでなく、昼休みや学級活動、総合的な学習の時間に運動をする取り組みを1・2年生では実施することができたが、3年生は実施することができなかった。 ・睡眠時間の確保や毎日の朝食摂取が習慣として身につくよう、また毎日の学校生活における健康管理を自主的に行うことができるよう、保健だよりや生徒保健委員会による啓発活動を行った。
次年度への改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・学習サポーターの活用方法を見直し、習熟度別授業や個に応じた指導をさらに進めたい。 ・理科教育の充実の項目として、「主体的・対話的で深い学びの実現」、「理科の見方・考え方」、「探求の過程」を意識した実験を1年生10回、2年生14回、3年生14回実施しており、8回以上という目標を達成することができた。 ・英語教育についてはさらなる向上を目指し、4技能の向上を意識し、文法演習や多読教材の使用、教科書以外の語彙も指導等を行う。また、C-NETの活用を行いながら、聞く・話す力の技術向上もより充実させていく。 ・次年度も淀川区学力向上支援事業を活用し、生徒の基礎学力向上に努める。 ・総合的な学習の時間に全学年で運動をする取り組みを実施するよう体育科から提案する。

大阪市立東三国中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日が、年間授業日の50%以上にする。

(基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進)

- ・年度目標に掲げる「授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日が、年間授業日の50%以上」の数値には35.0%と届かなかつたが、月平均の活用率は昨年度を上回った数値となっている。

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を60%以上にする。

*基準2

ア. 1年間の時間外勤務時間が720時間を超えない

イ. 1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を1年間に6月までとする

ウ. 1か月の時間外勤務時間が100時間を超えない

エ. 連続する複数月（2か月、3か月、4か月、5か月、6か月）のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の1か月当たりの平均が80時間を超えない

(基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり)

- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務時間上限基準の達成率は41.7%であり、年度目標には届かなかつたが、昨年度（37.5%）から改善はみられている。

○今年度末の校内調査において、生徒1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を5冊以上にする。（基本的な方向8 生涯学習の支援）

- ・1月末で学校図書館の貸出冊数が1422冊であり、一人平均5.15冊となり、指標を超えることはできた。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	
取組内容①【6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】	〔B〕
・学習者用端末の効果的な活用 毎日の学校および家庭での活動において、学習者端末のより効果的な活用を図る。	
指標 校内アンケートにおける「学校での活動や家での生活の中で、学習者用端末を活用できますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。	
取組内容②【7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】	〔B〕
・働き方改革の推進 学校閉庁日の設定など、教職員の働き方改革を進める。	
指標 学校閉庁日を夏季休業期間中と冬季休業期間中と合わせて5日以上設定する。	
取組内容③【8、生涯学習の支援】	〔B〕
・読書活動の推進 学校司書や地域ボランティア、生徒の図書委員会の活動と連携しながら、読書活動を活性化する。	
指標 学校図書館の年間貸出冊数を1400冊以上にする。	
取組内容④【9、地域との連携】	〔B〕
・地域を大切にする意識の育成 ジュニアリーダー実行委員会を活用するとともに、地域行事への積極的な参加を全校集会で呼びかける。	
指標 保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域とのつながりを持っていますか」の項目について肯定的に回答する保護者の割合を75%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
・学習者用端末の効果的な活用についてはICT教育アシスタントと連携し、生徒の活用のみならず教える側の教員の活用方法など授業支援も行った。総合的な学習の時間や行事等においても生徒の学習者用端末の使用頻度も上がっている。 ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合は42%であった。学校閉庁日を夏季休業期間に8/13(火)～8/16(金)の4日間、冬季休業中に12/26(木)、27(金)の2日間設定することができた。ゆとりの日は月1回で設置できている。 ・指標に掲げた学校図書館の年間貸出冊数は1422冊であった。図書委員会の生徒たちの活発的な活動とともに、学校司書との連携や地域ボランティアの図書館支援活動により目標を達成できた。 ・校内アンケートの回答では保護者86%（前年度比較±0）であった。 ジュニアリーダーの活動【新東三国地域のクリーンウォーク9/8(日)、1/13(月・祝日) 新東三国地域・小学校共同防災訓練11/30(土)、東三国地域運動会運営補助10/12(土) 10/13(日)・新東三国地域運動会運営補助10/13(日)】 地域との連携【新東三国地域のうちわ制作、東三国地域清掃11/6(金)、東三国地域の標語（表彰該当16名）、ポスター制作（表彰該当11名）（3/17(月)表彰予定）、品格教育に関するポスター掲示2月までに8回掲示】	

次年度への改善点

- ・学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2のそれぞれの項目が達成できるよう、業務や時間の短縮の工夫に努める。
- ・集会やHPなどでアピールすることで、来年度も来館数を増やす努力に努める。
- ・地域への貢献の観点から来年度も地域行事への積極的な参加のアナウンスを継続していく。